

小さな群れ

カトリック美唄教会

2022年4月 No.299

2022年3月27日発行

主任司祭 ナルチゾ神父



4月は、さまざまなお花が咲き乱れ、お花を楽しむ絶好の時期ですが砂川ではまだ雪が溶けていないのですが皆様はお元気でお過ごしでしょうか。

教会では4月10日聖週間になります。

聖週間は教会にとって特別なときです。聖週間の典礼には、イエスの受難、死、復活にすべてが集中します。すべての動き(活動)は沈黙し、このときは典礼の動きが優先します。教会全体が、イエスの受難、死、復活に全神経を集中しています。

典礼は、歴史の出来事、あの救いの出来事を神秘的に再現していきます。

2000年前の出来事の単なる反復ではありません。あの一回限りの、決定的出来事を、毎年記念することによって、絶えず新にしていくのです。その中で私たちは、2000年前の出来事、救いのドラマに触れていくのです。そして、聖週間の典礼をとおして、私たちはこのドラマを自分の中にもう一度確かめていくのです。ですから傍観者としての姿勢は許されません。

聖書朗読も、イエスの受難物語が読まれます。イエスの受難が初代教会にとって、大切な意義をもっていたことがわかるのは、すべての福音書(マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ)がそれを伝えているからです。それぞれの福音史家たちは、少しずつニュアンスをかえて伝えています。

この受難の物語をとおして、教会は、苦しみ、十字架の道をたどるイエスの神秘を黙想し、祈るようにと招きます。

典礼における聖書朗読も、イエスの受難物語が読まれます。

その理由は、受難と死をとおって復活の栄光へと過ぎ越していく、キリストの生涯のもっとも中心的な出来事だからです。キリスト受難の出来事がいきいきと再現されるように、伝統的にキリスト、語り手、群衆などと役割を分担して読まれてきました。ことに典礼に参加している会衆は、群衆の声を受け持っています。

ペトロの心に、群衆の心に、女性の心に…そして、イエスの心になってみましょう。そうして、ドラマの中の出来事をたどることにより、キリストの神秘に深く触れていくことができるのではないのでしょうか。

受難のドラマが罪の神秘の啓示であり、典礼の一つのモチーフが罪の神秘であるなら、愛の神秘の啓示は、もう一つのテーマでしょう。

聖週間の典礼の深まりと同時に、このときを、私たちは、教会とキリスト者としてのいのちの根元をもう一度確かめ、新たにするとときとしましょう。

2022年4月 主日ミサ・平日のミサ 予定

美唄教会 小さな群れ

2020年4月 No.299

2020年3月27日発行

今月の祈り 「家族の祈り」



日	曜	ミ サ		各種勉強会	会議・その他事項
		主日・祭日	時間		
1	金		午前 10 : 30	ミサ後 聖書に親しむ	
3	日	四旬節第五主日	午前 11 : 00		
8	金		午前 10 : 30		
10	日	受難の主日 (枝の主日)	午前 11 : 00		
14	木	聖木曜日 (主の晩さん)	午後 7 : 00	砂川教会にて	
15	金	聖金曜日 (主の受難)	午後 7 : 00	砂川教会にて	午後 3 : 00~ 十字架の道行き
16	土	聖土曜日 (復活徹夜祭)	午後 7 : 00	砂川教会にて	復活の卵を準備
17	日	復活の主日	午前 11 : 00		
22	金	復活の金曜日	午前 10 : 30	ミサ後 聖書に親しむ	
24	日	復活節第二主日	午前 11 : 00		ミサ後 定期総会
29	金		午前 10 : 30	ミサ後 聖書に親しむ	

《 平日のミサ 》 金曜日のみ 午前 10 : 30 1・8・15・22・29 日です
《 聖書を親しむ 》 平日のミサ後、旧約聖書に親しんでみませんか。

霊名の祝日	清掃当番	花 当番
16日 ベルナデッタ 大城繫子・世羅征子・佐藤順子	第2週 村田・板垣 第4週 中村	4月 東

【お知らせ】

- ◎ 美唄教会での聖週間ミサ（14日 15日 16日）は、ありません。
砂川教会で午後 6 : 00 より行います。

【幼稚園行事】

入園式 4月12日（火）

心のふるさと アッシジ

ウッケッドウ 恵美

私は不思議な運命に導かれアッシジの地をふみました。その始まりは、古い小さな木でできた金の板とのあいです。

12年前、夫の故郷からほど近い、美しい湖 オルタ。その土産店で、何が書いてあるのかわからないその小さな板にとっても心を惹かれました。夫に何が書かれているのか質問するとカトリックのお祈りと聞き、あまりお金が無かったので心配しましたが、日本円で千円位で購入できました。嬉しくてたまらなくすぐに私の宝物になりました。店主は、それはこの店で1番古いもので、親の代の物、まさか日本人の手に渡るなんてと笑ってしまし

た。その板の最後には、初めてきく名前「サンフランチェスコ」と書かれていたのです。夫に聞くとアッシジの聖人とききました。アッシジ。その言葉にさらに強く惹かれました。私は昔から、歴史の古い土地への旅や芸術に触れる時には、何も知らない状態、先入観にとらわれない、自分で感じる感覚を大切にしたいので調べないようにしています。その日が訪れるまで心に大切にしていました。

月日は流れ6年後、その当時、私は日々の仕事に追われ、自分の無力さに疲れきっていました。日本語しか話せないのに日本語がききたくないくらいに辛くなりました。その時ダビデは、すみれは、神様は、私に休息を与えてくれました。1人でアッシジにむかいました。1ヶ月間、語学学校に通い、サンフランチェスコの気持ちに近づくことが私の希望となりました。ローマから列車に乗り、Assisi と書かれたホーム。家の近くから歌声に惹かれるように教会に入ると、なぜだかたくさん涙があふれてきました。何故、涙がでるのかわかりません。ここはアッシジなのに三笠に住んでるかのようになり、ぐっすり眠りにつきました。翌朝、鐘の音でハッとして目覚めました。心の中が早く！早く！早く！その鐘の音の場所に行かなければ！ドキドキして口から心臓が飛び出しそうでした。走って鐘の鳴る場所へ向かうと、そこは昨日アッシジに着いて、すぐに出逢った教会 サンルフィーノ教会でミサが始まる鐘でした。私は子供の頃から仏教で育ってきたので、1人でミサに参加する事は初めての経験でしたが、入って良いのか恐る恐る息を切らして近づく私を修道女さん達は笑顔で迎え入れてくれました。その日から毎日、ミサに行ってから学校へ行く事が自然な幸せな日課となっていました。サンルフィーノの修道女さん達は時々、夕食やお祈りや集会にも誘ってくれたり、サンフランチェスコやサンタキアラについて教えてくれました。その時、サンタキアラについて知りました。この教会で2人は洗礼を受けたことや、サンタキアラがよく通っていた古い扉の事 もっとこの土地のことも感じたくくなりました。毎日学校が終わると色々な教会で、時がわからなくなるくらい時間を過ごしました。サンダミアーノ教会の礼拝堂に入ると、ここも何故だかわかりませんが涙が出てきてとまりませんでした。人々の祈る姿は美しです。みんな静かに神様と会話されています。

最終日の日曜日、どうしても行きたかったカルチェリの菴へ 修行と思いパン、サラミ、チーズ、水を持ち、7月暑い40度の中 片道2時間くらいかけて山を登りました。自分はフライパンに乗る目玉焼きのようで誰も歩く人はいません。暑くて思考は無でした。瞑想にはとても素敵な場所なのに疲れすぎて何も考える事ができず 下山時にやっとアッシジを見下ろす、青い空とオリーブ畑、ひばりの鳴き声をきき、彼も同じ景色を見て歩いていたんだと感無量でした。その時何故か、T字のクロスを、私は昔？タスカとよんでいた記憶がでてきました。住んでいるうちに不思議な感覚はとぎすまされ、昔の記憶のピースが一つ一つ組み合わさるような経験をさせていただきました。そして人や祈りの温かさにふれ自分自身をとりもどすことができたように思います。そこに送り出してくれた家族に本当

に感謝します。

そして、今日このことを書くにあたり、この宝物のお祈りの板を壁から外し手にとってみると、なんと12年ぶりでやっと内容が自然と心と頭に入り、そしてあの時は被造物の讃歌だと思っていたお祈りでしたが、私の大好きな平和の祈りだったのです。この事がわかる為の今だったのだと本当に感謝します。ナルチゾ神父様に初めてお逢いした時、サンフランチェスコに見えました。そんな神父様が私は大好きです。皆様、そして世界の人々が、どの国の人々も平和でありますように

平和の祈り



ああ主よ私をあなたの平和の道具としてください
憎しみのあるところには愛を
罪のあるところには赦しを
争いのあるところには一致を
迷いのあるところには信仰を
まちがいのあるところには真実を
絶望のあるところには希望を
悲しみのあるところには喜びを
私にももたらせてください
ああ主よ 私に求めさせてください
慰められるよりも慰めることを
理解されるよりも理解することを
愛されるよりも愛することを
人は自分を与えてこそ受け
自分を忘れてこそ自分を見出し
赦してこそ赦され
死んでこそ永遠の命に復活するからです